



マヤクボ沢を登ってスバリ岳、針ノ木岳、蓮華岳 (積雪期ピークハント/縦走 / 白馬・鹿島槍・五竜)

by

gekiyabu **日程：**

2012年06月30日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

天候：

晴れ

地図：WEB SERVICES BY **標高グラフ：****コースタイム：**

4:43 扇沢 -- 5:09 車道から離れる -- 5:49 大沢小屋 -- 6:07 雪溪に乗る -- 7:05
 マヤクボ沢出合 7:08 -- 8:03 2670m鞍部 8:10 -- 8:20 小スバリ岳 -- 8:26 スバ
 リ岳 8:30 -- 8:45 2670m鞍部 8:48 -- 9:07 針ノ木岳 10:37 -- 10:42 立ち話
 10:57 -- 11:17 針ノ木峠 -- 12:06 蓮華岳 12:50 -- 13:25 針ノ木峠 -- 13:51 登
 山道 -- 14:07 大沢小屋 -- 14:39 車道 -- 14:58 扇沢

コース状況/その他周辺情報：

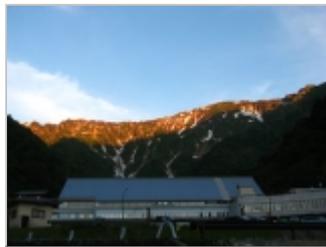
- ・扇沢駅横のゲート付近が登山口
- ・登山口に登山ポストあり

- ・車道のカーブをショートカットする登山道あり。ただし標識無し
- ・車道がトンネルに入る手前の左側に登山道入口あり
- ・雪渓に出るまで樹林帯を歩く
- ・今の時期は、雪渓に乗ってから針ノ木峠まで雪渓が途切れることなく続く
- ・雪渓上部は急傾斜で雪が締まり、ピッケルはともかくアイゼンが必要
- ・往路はマヤクボ沢を登ったが、針ノ木雪渓より急で雪に慣れない人が歩くのはヤバい(特に下りは)
- ・スバリ岳～針ノ木岳間は雪は無く夏道を歩く
- ・針ノ木岳～針ノ木峠間は2/3くらいが残雪上を歩き、稜線北側をトラバースする個所では急傾斜であり初心者は厳しい。アイゼン、ピッケル必携。
- ・針ノ木峠～蓮華岳間は雪は無い

 写真：



扇沢の大町市営無料駐車場



稜線に朝日が差す



扇沢駅南側のゲート横に登山口あり



ゲート横の登山口。登山ポストあり



ジグザグる車道をショートカットするように登山道がある。でも入口に案内標識なし。この堰堤の裏側に登山道が続く



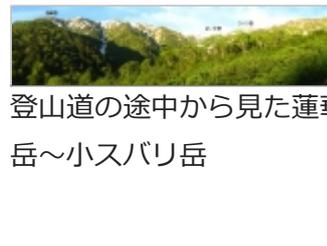
ここも登山道分岐だが標識なし



車道がトンネルに吸い込まれる手前の登山道分岐。本



針ノ木岳が見えていた。思ったよりも雪が残っている



登山道の途中から見た蓮華岳～小スバリ岳

当はここが登山口？



沢を数か所渡るがここが一番水量が多い。橋があるが橋が無くても渡れる程度



大沢小屋



樹林の登山道を進む



待望の雪渓に出た！



最初の傾斜がきつい場所。でもまだ雪は氷化しておらずノーアイゼンで登れる



再び傾斜が緩む



振り返る



マヤクボ沢出合から見た針ノ木峠方面



マヤクボ沢出合から見たマヤクボ沢。往路はここを登ることに決定



マヤクボ沢から見た蓮華岳と針ノ木峠。針ノ木雪渓の傾斜のきつさがわかる



マヤクボ沢で一番傾斜がきつい場所。登りだからよかったがピッケル無しでは下りは相当ビビリそう



急傾斜を抜けると針ノ木岳～スバリ岳の鞍部は目の前



鞍部から見たスバリ岳方向。全く雪は無い



鞍部から見た立山



鞍部から見た木挽山。まだ結構残雪がある。稜線から狙えるかな



鞍部から見た針ノ木雪渓。点々と人が見える



小スバリ岳とスバリ岳



小スバリ岳山頂



小スバリ岳から見たスバリ岳



スバリ岳山頂



スバリ岳から見たパノラマ展望写真



スバリ岳から見た後立山



スバリ岳から見た木挽山。青破線のルートでその昔に登った



スバリ岳から見た黒部別山



スバリ岳から見た妙高火打方面



スバリ岳から見た志賀高原の山々



スバリ岳から見た南アルプス。聖岳まで見えて大満足



鞍部へ戻り針ノ木岳を目指す



鞍部のテント場。雪のある時期専用



スバリ岳同様に針ノ木岳の登りも全く雪が無い



針ノ木岳山頂。奥の高まりが三角点



針ノ木岳から見たパノラマ展望



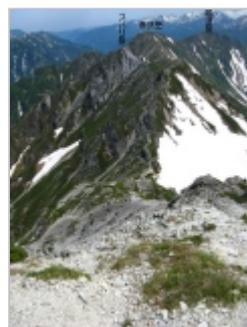
針ノ木岳から見た北アルプス核心部



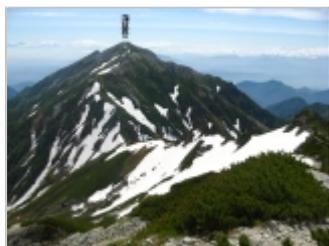
針ノ木岳から見た薬師岳



針ノ木岳から見た後立山



針ノ木岳から見たスバリ岳



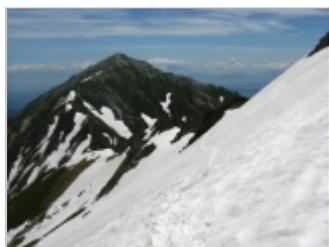
針ノ木岳から見た蓮華岳



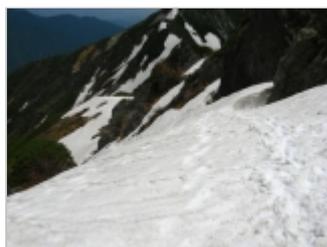
針ノ木峠へ向かう



針ノ木峠からのルートは残雪に埋もれ、雪の急斜面のトラバースの連続



トラバース帯突入。トレースがしっかり付いている



このすぐ下部が一番傾斜がきつい



危険地帯を通過。雪はまだあるが危険はない



針ノ木峠から見た雪渓



峠から蓮華岳に向かう



針ノ木岳を振り返る



こちらは雪は全く無い



マヤクボ沢が見えていた



2750m峰から見た蓮華岳
山頂



祠のある2790m峰から見た三角点峰



祠のある2790m峰



2790m峰から見た針ノ木
岳



蓮華岳山頂。奥の高まりが
三角点



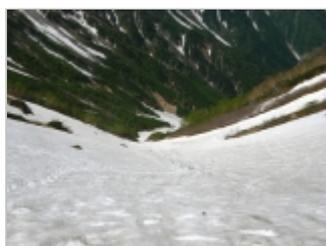
蓮華岳三角点から見た279
0m峰



蓮華岳三角点から見た東尾
根。明瞭な踏跡が見えた



針ノ木峠に戻る。テントが
3針じゃなくて3張あった



雪渓を下る。ノーアイゼン
で突入したが予想より雪が
硬く足が疲れたため途中で



アイゼンを半分滑らせて快
速で下る

アイゼン装着



登山道に到着



扇沢到着。そこそこ駐車場は入っているが夏場とは比較にならないくらい少ない



市営無料駐車場は大盛況

感想／記録 : (by gekiyabu)

もう気温が上がって藪漕ぎは暑いし虫が多い季節の藪もイヤなので、例年通りの「藪山シーズンオフ」に突入。10月くらいまでは登山道のある2500m以上の山に限定して山頂で涼む作戦が続く予定。今年その第1弾としてどこに行くか考えた。天気は土曜のみ好天で日曜は雨。テント泊で雨に降られるのは願い下げなので日帰り可能な山にするが選択肢が多くて悩むところ。最初は青木鉱泉から鳳凰三山を考えたが後立山に考えが傾き、爺ヶ岳か針ノ木岳のどちらかに。現場に行って気分で決めることにした。豊科ICで降りて大町から扇沢へ。柏原新道入口には既に車が。平日夜でこれでは明日の混雑は確実なので針ノ木岳に決定。扇沢の大町市営無料駐車場に車を突っ込んで仮眠。

翌朝は朝から快晴。朝飯を食って出発。装備をどうするか最後まで悩む。以前この時期の針ノ木岳に登った経験があり、雪渓上部は傾斜があるのでアイゼンは必携、できればピッケルが欲しいところだ。また、峠から針ノ木岳間も残雪で登山道が埋もれ急斜面のトラバースがあり、これまたアイゼンとピッケルが欲しい場所だ。下りを考えればアイゼンは絶対だが、あの地形ではピッケルは「必要」というより「安心材料」の範疇だろう(落ちて死ぬことはないと思う)。今年は残雪でえらい急斜面の登り下りを何度もこなしており、ピッケルは滑落予防として精神的に役立ったが無ければ通過できなかったかといえはそんなことはない。それらと比較して針ノ木岳の残雪はまだマシだと判断、ストックで代用することに。さて、結果はいかに。

ルートは何度も歩いているので問題なし。扇沢駅南側の車道のゲートで左に登山道が分岐、ここが登山口で登山ポストあり。ゲートの車道を歩いても結果的には同じなのだが、ゲートは立入禁止だし、登山道はカーブを繰り返す車道をショートカットするように付けられているので登山道を歩く方がお得である。ただ、車道から登山道に入る場所に標識がなく初めての場合は分かりにくいのがちょっと。

車道がトンネルに吸い込まれる直前で左に登山道が逃げる。ここは駐車場があり、針ノ木小屋の関係者だろうか、車が1台。この先は車道は無い。登山道はそこそこ手入れ

されているが刈り払い完璧ではなく、枝や葉がはみ出した個所もある。朝方はそれよりもクモの巣の方が鬱陶しい。露払い、クモの巣払いは先頭を歩く者の義務か。おおよそブナ樹林が続き展望は無い。

枯れた沢や水が流れる沢を渡るところで展望あり。橋は2か所だが水量は多くはなく渡渉可能なレベルだ。やがて大きな建物が登場、大沢小屋だ。まだ営業開始前でひっそりしていた。

なおも樹林を歩いて待望の雪渓へ出た。前方に人の姿は無い。天気最高！ 雪渓を吹き下りる風は涼しい！ まだ雪は氷の硬さではなくキックステップが効く範疇なのでノーアイゼンでスタート。足は軽い方がいい(今回は12本爪アイゼンなので重い)。雪渓が左に緩やかに曲がる標高2050~2100m付近が少し傾斜があるがアイゼン無しでも問題なし。もうすぐマヤクボ沢出合という地点で音もなく落石が左に20mほど離れた場所をえらい速度で転がっていった(直径は10cmくらい?)。あんなのが当たったらひとたまりもない。

なおも登ってマヤクボ沢が見えてきたところで、当初計画を変更してマヤクボ沢を登って針ノ木岳とスバリ岳間の鞍部に出ることにした。これならちょっとだけ周遊コースとなり、針ノ木峠から山頂往復より面白い。見える範囲でマヤクボ沢は残雪が続き、針ノ木岳に前回来た時にはその上部はたつぷりと雪が付いていたが下部の様子が見えず下るのを諦めた経緯がある。ここから見えない上部は間違いなく雪があるだろうと予想。問題は傾斜の方か。途中、かなり急な場所がありピッケル無しは怖いかも。でも登りなら何とかなるかも。

この日は私が先頭の登山者で後方には他の登山者がいる中で、針ノ木峠へのルートを外れてマヤクボ沢に入るのは気が引けた。マズいのは後続もマヤクボ沢に入ってきてしまうことで、その場合は大声で届けばいいのだが。でもうまい具合に私の次に登ってきた人はちゃんと峠に続く雪渓に入ってくれた。これでもう大丈夫だろう。

雪渓が右に方向を変えて狭まると傾斜がきつくなり、足への負担と運動密度が一気に増してここまでの雪渓歩きでかかなかった汗が噴き出す。ピッケルがあった方がよかったなあと思える傾斜であるが、登りなのでストックでもどうにかなった。でも下りだったらピッケルがないと恐ろしくて下れない傾斜だ。マヤクボ沢は初心者が通過するにはヤバすぎる。振り返れば針ノ木雪渓を登る登山者の姿が見える。あちらも上部はかなりの傾斜だ。

急傾斜区間を通過すると間近に鞍部が見える。予想通り残雪が連続、藪は埋もれていた。雪渓をそのまま直進すると鞍部ではなく小スバリ岳山頂方向の岩場に突入してしまうため進路を左に振りトラバース。地面が露出した個所を少しでも横断して再び残雪に

乗って鞍部到着。登山道のある稜線上は完全に雪が溶けて夏道が露出、黒部側の展望が開け、まだまだ雪が多い立山、劔岳が。木挽山もまだ雪が残っており、今なら越中沢岳から稜線伝いに往復しても大半の区間で藪は雪に埋もれたままだろう。

針ノ木岳に向かおうとも思ったが、ここまで来たならスバリ岳に足を延ばさない手はないのでメインザックをデポしてアタックザックに防寒着だけ入れて出発。天気は最高、風は微風でこのままTシャツで問題ないと思うが、一応念には念を入れておくべきだろう。過去の経験からスバリ岳まで雪が無いことは分かっているので安心だ。この付近は高山植物がそこそこ咲いていたが、名前が分かるのはハクサンイチゲとイワカガミくらいか。針ノ木岳から蓮華岳間の稜線より明らかに多かった。ただし、コマクサについては蓮華岳の独壇場だが(まだほとんど咲いていなかった)。

しばらくは岩場が連続し、その西側を巻くように登山道が付けられているが危険箇所は無い。目印も多く間違ったルートは入り込まないように×マークが付けられていた。道無きバリエーションルートとは大違いだ。広い尾根に乗ると2740m峰(小スバリ岳)直下を巻くがせっかくなのでピークを踏んでおく。この標高だともう藪は無い。

僅かに下って登り返すとスバリ岳山頂に到着。夏山と違ってまだガスが上がってくるようなことは無く文句なしの大展望。黒部川の向こう側には薬師岳から立山、劔岳、北方稜線が続く。後立山は清水岳から旭岳、白馬岳、鑓ヶ岳、唐松岳、五龍岳、鹿島槍、爺ヶ岳と重なりつつ並んでいる。その奥には焼山、火打山、妙高山に高妻、乙妻などの北信の山々。南に目を転じると東側には表銀座から槍穂、その右には野口五郎岳や鷲羽岳、水晶岳、赤牛岳などの北ア最奥部の山並み。東は雲が多いが横手山や岩菅山などの志賀高原の山々が見えており、左奥には特徴的な形の苗場山。そうか、苗場山から北アが見えるんだなあ。写真判定にて越後三山中ノ岳や群馬/新潟県境の巻機山や平ヶ岳まで見えていたことが判明。表銀座の左側には鳳凰三山から甲斐駒、北岳、仙丈ヶ岳(間ノ岳や農鳥岳と重なっている)、塩見岳、荒川東岳、荒川中岳&前岳、赤石岳、聖岳と南アルプスが全部丸見えだ。これだけ見えれば大満足。おっと、富士山を忘れてはならないがコントラストが薄くて目立たない。八ヶ岳は大部分が雲に覆われていて、どのピークが見えているのは判別できない。

鞍部に戻ってメインザックを回収し針ノ木岳へ。北斜面だが残雪は皆無、岩場が崩れたような場所もあるが危険は無い。最後に突き上げて無人の針ノ木岳山頂に到着。私はスバリ岳に寄り道したが、まだ後発部隊は到着していないようだ。この山頂の展望も言うことなし。南アは雲が湧いてきて徐々に見えなくなってきたが、普通の登山者は北アの展望に目を奪われて南アには気付かないだろう。

山頂到着から30分程度して後発部隊の最初の登山者が到着。以降は点々と登ってきた。とはいえ、まだ夏山シーズン開幕前で大賑わいというレベルには程遠く静かな山頂

のままだ。針ノ木峠方面を見下ろすと2760m峰の北側をトラバースする雪面に点々と人の姿が見えている。たぶんここの通過に時間がかかっているのだろう。こちらはピッケル無しで頑張るしかない。

時間はたっぷりあるので山頂で1時間半ものんびりしてから出発。これでもまだ時間が余りそうなので蓮華岳に足を延ばすことにする。ここは過去2度登ったことがあるがいずれもガスって展望皆無で終わっている。今回はこのまま晴れが続きそうで、3度目の正直で展望を楽しめそうだ。

2760m峰手前の鞍部でアイゼンを装着しつつ登ってくる登山者を待つ。ピッケルを持っていればそのまま斜面に突入して、すれ違う時にトレースから外れてルートを開けることも可能だが、ストックではトレースを外すのはちょっと勇気がいる。対向者が斜面を通過し終わってから私が突入。なかなかの傾斜であるがトレースが切られているのでアイゼンを効かせるまでもない。でも大きな岩を避けて急激に高度を下げる場所ではストックでは心元なくピッケルを持ってくればなあと感じた。この時期の針ノ木岳への核心部はここだろう。

そこを通過すればまだ残雪は続くがもう危険箇所は無く、雪が切れて夏道が出たところでアイゼンを脱ぐ。あとは雪渓下りまでアイゼンの出番は無い。針ノ木峠から蓮華岳への登りは過去の経験から雪の上を歩く箇所は無く夏道を登る。途中の半端な場所でメインザックをデポしてアタックザックに変更。峠にデポすればよかったかな。

2754m峰に至って蓮華岳山頂が目に入る。以前の2回登った時にはいずれもガスの中で視界が無かった。僅かに下って山頂への最後の登りにかかるとあちこちにコマクサが生えているのが目に入った。まだ時期が早いようで咲いているのは1,2株で、まだ蕾が大半だった。

傾斜が無くなると東西に長い山頂の一角に到着。西端ピークは小さな祠が立っているが山頂標識が立っていないのは前回登った時に分かっていた。ここから見ると山頂部東端の三角点の方が高いのかどうか微妙だ。山頂では先客の2人が休憩中。蓮華岳山頂で登山道は直角に折れて南へと下り、北葛岳へと続く。直進の東尾根には道は無いが、冬ルートであろうか砂礫上に明瞭な筋が付いているのが見えた。まだ好天が続き今日の展望は文句なし。山頂で少し休憩して下山開始。

ザックをピックアップして針ノ木峠に降り立つ。雪渓を見下ろすとアイゼン無しでも行けそうな傾斜に見えたので、とりあえずノーアイゼンで下ってみた。しかし思った以上に雪が締まっていて踵のキックステップではすぐに筋肉が疲労し始めたので途中でアイゼン装着。これさえあれば何の問題もなく半分滑りながら豪快に下っていける。マヤクボ沢出合を通過して傾斜が緩んだ地点でアイゼンを脱ごうかとも考えたが、この先に

もう1か所急な場所があり、またアイゼンを装着するのは面倒なのでこのまま歩いた。2か所目の急斜面を終えてからアイゼンを脱ぐと、靴底が適度に滑って歩くより滑る時間の方が長くなった。夏道に乗る地点まで戻って針ノ木峠出発からかかった時間は約25分。ちなみに登りでは雪渓に乗ってからマヤクボ沢出合まで約1時間。そこから峠までは往路で歩いていないが、標高差約300mだから40分程度かかっただろう。ということは登りの1/4の時間で下れたわけだ。こんなことは雪がないと不可能だ。

登山道に乗り、水が流れる沢で濡れタオルで汗を拭いてさっぱり。扇沢の舗装された駐車場は、以前は駅に最も近い最上段の駐車場が有料でそれ以外は無料で、どの駐車場も出入り可能だったが、今は有料駐車場以外は出入口が塞がれて使えないようになっていた。ハイシーズン以外は有料駐車場以外は使わせないのだろうか。その影響か、市営無料駐車場に戻ると車でほぼいっぱいだった。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>